

(様式3)

自己評価結果票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営 1. 理念と共有			
1 ○ 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営母体の経営理念、目標に準じて理念を策定、日々の取り組みの積み重ねによって理念の実践をめざしている。		
2 ○ 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念をホームの目につきやすいところに掲げ設立以来の肉付けで、よりハイレベルな取り組みに全職員あげて精励している。		
3 ○ 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族、地域を大切にすることで利用者がより楽しく暮らせるように取り組んでいる。理念の浸透は交流の積み重ねで実践している。		
2. 地域との支えあい			
4 ○ 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	病院、施設が周囲にあり近隣の人とは少し離れているが、入院患者、施設入所者とのつきあいは日常的にある。		
5 ○ 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会、保育園との交流はしっかり定着しており、地域行事には必ず招待して頂き顔見知りも増えた。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地元自治会との交流を通して施設の存在、認知症への理解を触れあいの中で積み重ねている。利用者の友人知人の来訪も多い。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	業務の全てにわたり、全職員が第三者評価を意識しながら日々取り組んでいる。内にこもらず、独りよがりにならずに業務を遂行している。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議のメンバーとは会議以外でも交流を深めており、施設内のイベントには積極的に参加して頂いている。		
9	○市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	丹波市介護保険課の職員、地域包括支援センターの職員とは来訪の機会を多く設けて全員と情報交換している。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	月に一度のカンファレンスの時に勉強会を併せて開き、その中で介護保険制度の後見制度等をテーマに勉強している。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	運営母体の法人の指針に則り、定期的に研修会を開いているほか、虐待防止の徹底の意識化に努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○ 契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては、隣接する病院の相談員も同席し、重要項目や契約書類の説明を丁寧に行って理解をもとめている。		
13	○ 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関の良く見えるところに意見箱を設け、気軽に利用できるようにしたり、市相談員の訪問を活用して意見を反映するよう尽力。		
14	○ 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	9人の利用者家族のうち全員が月に複数回の来訪をされ、その都度様子も話しているほか、毎月一回、金銭の出納を報告している。		
15	○ 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関の面会カード投入箱の横に意見箱を設け意見、苦情等を受け付けているが、昨年、一昨年とも一件もなかった。		
16	○ 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に月一回、管理者と職員が運営について話し合っているが、形式的になるため休憩時間等を活用して話し合うよう努力している。		
17	○ 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	勤務表作成の際には毎月の行事、地域イベントの予定の把握に努め、それによって全員出勤等の措置を講じている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	少人数の体制で運営しているため、職員の異動によるダメージは大きい。このため、急な異動や交代は極力抑えている。また、新人が仕事しやすいよう心がけている。		
5.人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営母体の医療法人が実施する研修会や講習には全員出席を目標にしているほか、市や社協の主催する研修には可能な限り出席するよう勧めている。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	昨年、丹波市内の4つのグループホームがネットワーク会議を立ち上げ、3ヶ月に一度会議を開いて交流を深めているほか、他の施設からの訪問、視察も積極的に受けている。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	ストレス軽減のため、第一に職員の訴えに耳を傾けるよう努め、形式的な会議の場でなく日常業務の中でも意見交換するよう尽力。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員個々の潜在的な能力が発揮できるよう、自主的な試みを大切にしている。「なんでもやってみよう」を浸透させるよう努力している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○ 初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居当初の対応として、できるだけ先入観を持つことのないよう心掛けている。そのためにも利用者の意見、考えを会話の中から多く引き出すよう努めている。		
24	○ 初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族との信頼をより強固なものにするため、特に初期は些細な事、どうしてもよさそうな事でも連絡し、安心してもらえるよう心掛けている。		
25	○ 初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用相談時には、母体の法人老健施設、特養等の特色も話し、偏見なく利用者のことを第一に考えて決めてもらうようにしている。		
26	○ 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	できるだけ在宅中の居室に近いように家具の配置を考え、特に要望があれば神棚、仏壇の設置も認めている。飾りつけも規制なく利用者の意見を優先している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○ 利用者と共に過ごし支えあう関係 職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	職員にとっては、人生の大先輩にあたるため、尊敬の念を常に持つよう訴えている。「介護してあげる」という態度は厳に慎むよう指導している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○利用者を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に利用者を支えていく関係を築いている	職員も家族の一員ととらえ、くらしの中で支え合う関係を築いていくよう努力している。信頼が第一。		
29	○利用者と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの利用者と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族とのよりよい関係に向けた支援については、マニュアル対応でなく、それぞれの事情に即した関係を築くよう努めている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 利用者がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者全員が丹波市内の人のため、来訪者は多い。面会時間等規則を定めず自由に来訪できるように支援している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	多様な個性を生かしながら、快適な空間と時間を確保する事に苦心しているのが現状。客観的な視点で対応していきたい。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	体調の変化等でやむなく退所される場合でもその後について親切に情報を提供し、変わらぬお付き合いを大切にしていきたい。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○ 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや意向は他者の迷惑にならない限り、最大限尊重していく方針。残りの人生を思うように過ごしてほしい。	
34	○ これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	過去の生活パターンを家族等から詳しく聞き出し、ホームの規則や共同生活のわずらわしさを押しつけないよう気をつけている。	
35	○ 暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎日の健康チェックは欠かさず実践している。1日の過ごし方は画一的にならず、健康状態をみながら暮らしてもらっている。	
2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○ チームでつくる利用者本位の介護計画 利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	管理者以下、全職員が計画の作成に関わっているほか、家族や医師、看護師の意見希望も反映できるよう努めている。	
37	○ 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見守りはもとより、心身の変化が見られた場合は、職員家族が会し、現状に即応した新たな計画を作成している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者一人ひとりの介護記録ノートを作り、暮らしぶりやその日の様子、時には健康面の情報を記入し、心身の変化がひと目でわかるようにしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	当ホームは病院、老健施設、通所リハビリ、居宅支援事業所等と隣接しているため、常に連携しながら多機能性を活かした支援に努めている。		
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	近くの保育園、小学校とは行事ごとに招待され、気軽に訪問しあえる関係を築いている。地元自治会行事にもほとんど出席している。		
41	他のサービスの活用支援 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	ほかのサービスを利用するための支援はしているが、実際の利用は現在のところ実施していない。		
42	地域包括支援センターとの協働 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターとは、業務や研修、連携事業等を通して交流を深めている。訪問の依頼には必ず応じている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43	○ かかりつけ医の受診支援 利用者や家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	運営母体の医療法人の病院が隣接しており、定期受診や緊急時の対応には万全を尽くしている。		
44	○ 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	病院内に丹波認知症疾患医療センターがあり、気軽に受診や相談に応じてもらえるような態勢を築いている。		
45	○ 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	隣接病院の看護部長(前管理者)には常に情報を報告しているほか、外来の看護師とは医療連携を通じて支援してもらっている。		
46	○ 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	利用者には主治医があり、入院退院等の医療面での判断は全面的に委任して情報交換に努めている。		
47	○ 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化、終末期のあり方については、早い段階から家族と相談し方針を共有しているが、最終的には家族と主治医の意見を尊重している。		
48	○ 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	家族には、当ホームとして「できること・できないこと」をはっきり伝え、過度の期待を持たれないよう正確な情報を伝えている。主治医との意見交換は欠かせない。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	○ 住み替え時の協働によるダメージの防止 利用者が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	当ホームではこれまで、入院を除いて他の住居へ移った例はないが、その対象者にとってスムーズに移行できるよう認識を深めていきたい。		
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重				
50	○ プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員研修やカンファレンスの席で、プライバシーの尊重や個人情報の取り扱いの注意を徹底し、不備な点はその都度指摘している。		
51	○ 利用者の希望の表出や自己決定の支援 利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	共同生活なので、個々の資質や性格に左右されることが多いが、その人なりに願いや希望を表出できるよう心掛けている。		
52	○ 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	住まいをホームに移された人にとって、生活のリズムが崩れるのが一番の不安材料なので、以前の生活をベースにした暮らしを支援していきたい。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○ 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	理容・美容は基本的に本人の希望を尊重しているが、全員が病院へ出入りされている業者にしてもらっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	法人の方針により、1日三度の食事は隣接の病院で調理したものを持ち寄り、配膳を利用者が担当して提供している。	○	週に一度はホーム内で昼食、おやつ作りを実施しているが、回数をふやしたい。
55	○利用者の嗜好の支援 利用者が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お酒、たばこは禁止しているが、その他の嗜好品については自由で、家族が持ち寄ったり、買い物に出かけて日常的に楽しんでいる。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	夜間帯はポータブルトイレを使ったり、個々に合わせたトイレ誘導を促して、気持ちよく排泄できるように支援している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	原則は月、水、金曜日の週3回としているが、その日の気分や体調に応じて入りたい時に入れるように支援している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	消灯時間は特に設けず、夕食後はテレビを見たり、本を読んだり、談笑したりして自由に過ごしてもらっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日々の暮らしの中で、全員にレクリエーション等を押しつけることなく、それぞれの趣味、楽しみ方を最大限に考慮して自由に過ごしてもらっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	○ お金の所持や使うことの支援 職員は、利用者がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	9人の利用者のうちほぼ半数が自分で金銭管理ができるため、自由に買い物に行ってもらっている。その他は病院事務所で管理している。		
61	○ 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出は原則自由。毎月の行事予定の他、利用者の希望があればその日に出かけることもある。		
62	○ 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	全員の意見が一致するのはかなり困難なためそれぞれの思いを尊重して外出を支援、個人やグループで外出している。		
63	○ 電話や手紙の支援 家族や大切な人に利用者自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話、手紙のやり取りは自由で、便箋や封筒の購入、投函も支援している。		
64	○ 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、利用者の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間の規制はなく、いつでも気軽に訪問してもらっているため、家族からは職員ともゆっくり話しができると喜ばれている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○ 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	運営母体の医療法人・病院の身柄拘束委員会の研修等に参加し、グループ全体で正しいケアに取り組んでいる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	現在、居室内はもとよりホームの3ヶ所の出入り口に鍵をかけていない。ただし、夜間は3ヶ所とも施錠している。		
67	○利用者の安全確認 利用者のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	居室を訪問する時は必ずノックをして訪れているほか、夜間は定期的に訪室して様子を把握するように努めている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	個人の物品の管理については一律にするのではなく、一人ひとりの状態に応じた保管・管理に努めている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	夏以降、特定の人(2名)による転倒が続いたため、その人の状態に応じたきめ細やかな対策をとって全職員が事故防止に努めている。		
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	事故発生時や急変時の対応については、決め細やかなマニュアルを策定し、全職員が対応できるよう措置を講じている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	隣接する病院、施設の防災・避難訓練には欠かさず参加。出火・災害を想定して実践している。	○	独自の避難マニュアルを作成中。年内にはまとめる方針。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い - 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	主治医とは定期受診を通じて、必要な措置を講じているほか、内容についても常に家族に報告して理解を求めている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 - 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	高齢化が進み入院も珍しくない状況が続いているため、体調の変化・異常には常に気をかけ、バイタル測定は毎日行っている。		
74	○服薬支援 - 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	隣接する病院の薬局長に月2回、服薬管理指導を受け、指示の徹底を図るとともに理解力の向上に努めている。		
75	○便秘の予防と対応 - 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘症状が続く場合は主治医に相談し、早めの予防に努めるほか、運動など基本的な取り組みを実践している。		
76	○口腔内の清潔保持 - 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	ほとんどの利用者が介助なしで口腔ケアができるが、できない人や義歯のケアは職員が支援して清潔保持に努めている。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 - 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	3食の食事とも管理栄養士の献立に基づいて提供しており、かゆ、きざみ、糖尿食等個人にあった食事を提供している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肺炎、MRSA、ノロウイルス等)	周囲には病院、施設があり、感染委員会の指示によって予防や対応に取り組んでいる。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	病院から配食を受けているほか、独自で調理する場合でも食材は病院栄養課より提供されたものを使用している。		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	グループホームが地域から親しまれ、気軽に立ち寄れる施設になるため、玄関周辺は四季折々の花で飾り、思わず立ち寄りたくなる施設づくりを心掛けている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は、一人ひとりの思いや意見で創り上げていくのではなく、希望を聴いたり話し合う中で快適な環境づくりに努めている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間とはいえ、一人ひとりにとって気ままに楽しく過ごしたいはず。利用者みんなが気持ちよく過ごせるよう、キメ細やかな配慮に努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	備え付けのベッド、家具のほかは、何を持ち込んでもらって結構。仏壇、神棚、タンス、イス、机、敷物等なじみの物を持ち込んでいる人も多い。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎日、居室の換気を行っているほか、各部屋の室温については、個人の体調、好みに応じるなど画一的にならないよう配慮している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内は車イスでも自由に動き回れるようバリアフリーになっており、できるだけ自立して自由に暮らせるよう支援している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	認知症の進行で混乱や失敗が予想されるが、主治医や家族と相談して、よりよい環境づくりを図っている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物の周囲にはベンチ、イス、長イス置いて憩いの場づくりを演出しているほか、畑や花壇も設けて野外活動を支援している。		

( 部分は第三者評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ 毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○ ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ 大いに増えている ○ 少しずつ増えている ○ あまり増えていない ○ 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ほぼ全ての職員が ○ 職員の2/3くらいが ○ 職員の1/3くらいが ○ ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ほぼ全ての利用者が ○ 利用者の2/3くらいが ○ 利用者の1/3くらいが ○ ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ほぼ全ての家族等が ○ 家族等の2/3くらいが ○ 家族等の1/3くらいが ○ ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利用者には生きてこられた歴史、生きざまがあり、残された余生についても強い思い入れがあると思います。何よりもそれらの思いを大切に、たとえそれが疑問に感じられるようなことでも最大限大切にしていきたいと思います。また、家族の願いを素直に受け止め、満足してもらえるケア、支援に努めたいと思います。グループホームの主役は建物でもなく職員でもなく、一人ひとりの利用者だということを全職員が強く認識して、日々努力していきたいと思っております。